

令和7年度つくば市予算編成方針

つくば市は、令和5年に発表された「人口増加率全国一位」に続き、令和6年に森記念財団都市戦略研究所が発表した「日本の都市特性評価2024」では「働きやすさ」と「住みやすさ」の両面で評価され、一般市で1位、政令指定都市等を含めても全体で8位となりました。さらに東洋経済新報社が発表した「住みよさランキング2024」においても8位となり、これらの結果からも、つくば市が「選ばれるまち」として評価されていることが数値的にも示されています。今後も「選ばれるまち」であり続けられるよう、『世界のあしたが見えるまち』の実現に向け、引き続き進めていきます。

令和6年度は、つくばエクスプレス沿線地域を中心とした児童生徒急増に対応した小学校・中学校の新設、新給食センターの整備、待機児童ゼロ達成に向けた保育施設や児童クラブの充実、環境省の脱炭素先行地域に選定されたつくば駅周辺地区におけるカーボンニュートラル達成に向けた事業の実施など、子育て環境の充実や誇れるまちとして先進的な施策に取り組むとともに、身近な地域での居場所やたまり場づくりなど、多様な活動を可能とする場を創出することで、市民の幸せにつながるための施策を行ってきました。

令和7年度は、引き続きたまり場・居場所となる拠点を市内全域に増やすとともに、もう少し先のつくばの未来を見据え、地域の特徴を活かしながら、つくばのまち全体の価値を高めるため、『価値ある未来へつなぐ予算』をテーマに掲げ進めていきます。

具体的には、多世代の活動や交流の拠点となる図書館・子育て複合施設や地域と連携した学校施設の在り方の検討、給食レストランを含む地域のコミュニティ拠点や児童発達支援センター、陸上競技場の整備、道の駅の整備検討、気候市民会議からの提言の実現に向けたロードマップの推進などを通して、持続可能なまちづくりを進めていきます。